

つどい

町民に将来への

夢を持ちたい

大代町も最近若い人は都会へ出て、年寄りだけの過疎の現象が甚だしくなりました。

部落によれば今から一二年すれば、子供は一人も居ない処も出て来ます。

今後大代町の生きる道は皆が持ち寄った夢の実現に力を合わせて努力することではないかと思うのです。

例えば大邑地区国営開発事業に夢をかけ、この際、大代町の霊峰大江高山の開発に力を合わせ、先ずこの山の裾野に林道の延長を国に働きかけることで、これは最早、調査費も決定の予定ですから、それには大代町民全体の力を結集して、計画を立て、将来への夢の実現に努力することではないでしょうか。

私たちの町+

良くしよう

館長 尾崎義徳

大代の皆様、漸く陽春の候を迎え、ご多忙の毎日と存じます。私は去る十二月一日付にて、木村前館長の死去により、大代公民館の館長としてお世話をさせて頂いた、たくこと存りましたので、町民の皆様方のご協力をお願い申しあげます。

公民館の仕事は広範囲で社会教育、文化、健康等々、

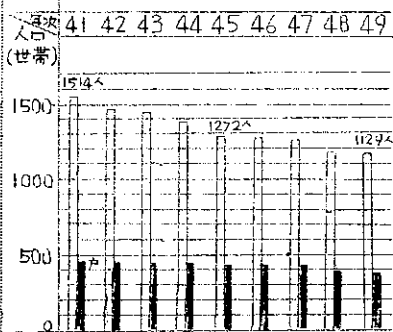
町民の方々の一人でも、一つでも良くなるように相談役としての役割であると思えます。私は大代町自治連合会長として、約十年間色々と選出議員と共に皆様方の協力により旧国道の舗装、市道、大代分校、中小学校、浅利敬工場等々、大代町良くなれかしをモットーに歩んで来ましたが、振り返って見ますと、種々難問題も

あり、未解決の事も多々あります。精神的にも経済的にも、道路、学校等、一歩前進するためには、町民の方々と一つ心となり、話し合の場を持ち、或は各団体とも研究討議して行くことにより、良き町作りともなり大田市のためにもなると思います。

町民の心の結集こそ原点でもあります。これからどうか皆様方のご協力をお願い致します。

今後ご意見をどうぞ公民館にお寄せ下さいますようお願いいたします。

大代町人口推移



積重ね

この頃の子は物を粗末にする。根柢よくない、手伝いをしない、行儀作法が全然ダメ、挨拶一つしない、等々、親たちがよく言う、事案そうであるけれど、一体そんな子に誰が育てたのだらうか。

学校の教育の仕方が悪いと言つては先生を批判する、これは筋ぢないである。

三才児の魂、百まで、という金言がある。

幼児期が一番大切な教育の時期である。この期間の教育担当者は親である、学校の先生でも隣の人でも、親類の人でもない。

学校は知識、学問、能力を植えつけ、伸ばしてゆくところであり、家庭は人間づくりの場である。

人間という反物を織り上げる場所である。

一生涯というタテ糸と一日一日の生活という横糸によつて何年もかかつて、毎日織り上げられてゆくのである。親と子のふれあい、家庭生活そのものが横糸になつて、人格の反物が出来上がるのである。

あの子はお父さんさうくりだと言ふ。

子は意識してそうなのではなく、いつとはなしに染まつたのである。

良いことも、悪いことも、子は親の生活を見習い、自分の人格を織り上げてゆく、これも家庭教育である。

これ水家庭の役割である、人間味のある、社会のお役に立つ人間は、家庭の役割を大切に積重ねる親の中から生まれる。

親としての積重ねを怠つておいて、こんな苦ではなかつたか、失望したり、悲しんだら、することは、タネを

まかすにいて、実かそれなると、なげくに等しい。家庭でしか、親でしか出来ない、大切な仕事を親は受持つてゐることを再確認して、将来に希望の輪をひろげてゆきたい。

家庭教育研究会 に出席して

課題は「子供の教育について親と教師はどういう協力をするか、その具休策」ということでした。幼児部会では、我保を通して、と、子供が苦しむ以上に親が苦しむようになる。幼児の時こそ、親も我慢し、子供にも我慢させる。子供にばかり強要しないで、親が先に範を示すべきであり、年令に応じた欲望満足、それを親は見分けて、その子の個性に応じて考えなければならぬ。小学低学年で

は、読書は我慢強さに通じて、テレビを見ることによつて、本を読むことに抵抗がある。親子が本を読み合ひ、話し合うことが必要。一人の子供の成長を願うには、親は怒るだけでなく、もっと冷静に同じ態度で一貫した態度をすること大切である。小学高学年では、グループ活動のあり方は、有意義、グループ活動を通過して、我慢強い子、根気強い子を育てる。それ等は自己規制出来る子である、一人立ち出来、自主性、積極性、希望目的を持たせる事が必要、物のある時にこそ、その大事さを知らせる。無い時に我慢するよりも、ある時に我慢することが大変なものである。

中学部会では、中学生の不良化は、年々増加していく傾向がある。家庭では子供をよく観察

すること、親の怠慢から子供の变化を見逃がし、大事に至ることがある。これらのことからが、分科会で話し合われました。その後、ある中学校の卒業生を目前に控えた生徒に、学校に対して感謝する事はないか、との間に、何も無い、と答えたといい。

それにつけて、家庭でもっと宗教的なものを教える必要があるのではないか。「静かな時を持つ」これは家族揃って静かに祈り、反省する。一つ一つの物質の中から、又は作業の中から、自然の尊さを、自然の美しさを知り、人の心に通じる情操を養うように、親はもつともつと努力すべきではないか。

と、謙虚な心。一、「私がいまします」という奉仕の心。一「ありがとう」という感謝の心。これは仁摩町の小学校PTAな、各家庭に配っていたものです。誰もがこの五つの心を持って、世の中は楽しく住みよくなるでしょう。このことは、私達一人一人が常に、心がけておくべきではないでしょうか。

女のつどい

武田 絹枝

三月三日、婦人会の総会が開催された。午前十時から午後四時まで六時間、有効にご反すことな出来るだろうか。いささか不安であった。しかし、終ってみると心の隅で何か満ち足りたものを感じた。この日出席した百人あまりの女の手で今日のこの日を有意義に過すことのできたの、すばらしいことだと思った。

一日の日程の中に組まれた分科会の中を、ちよつとのぞいてみよう。第一分科会「婦人会に望む」というテーマのもとに話し合いが進められていた。

電気料の集金がなかなか困難であるとの声、又戸教のすくなくところでは、労働多くして収益が少ないとのこと。この声に対して、

「お互に助け合い、外出する便を利用して持つて行ってあげるようにしたらいい」「集金に歩くと話し合いの場が持たれて楽しい」「なかなかいことをおっしゃる。」

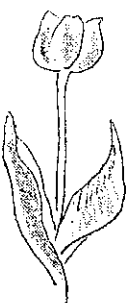
次に問題になったのは集会のことであつた。会に出席するしないは自分の心構え次第だ。各自がその気にならなければいけないとのこと。年令に差があるから

年令層によつて会合を持ちたいとのこと。そして老後の設計でも語り合つてみたいとの声。

統々と建設的互意見を出て来た。今日この日は会員誰も有名講師であり、名助言者であつたのだ。他の分科会でも同じことが言えたと思う。女である私達のでこの会を盛り上げて行くことが出来たのである。

こうして、女はえらくなつていくのだ。「いやえらくなるのではなく、リッパになるのです」。これも、ある会員さんのしみじみと言われた言葉だ。なる程リッパな女にならなければと、自分に言い聞かせた。そして、リッパな女のつどいであることを願つた。

こうして、女はえらくなつていくのだ。「いやえらくなるのではなく、リッパになるのです」。これも、ある会員さんのしみじみと言われた言葉だ。なる程リッパな女にならなければと、自分に言い聞かせた。そして、リッパな女のつどいであることを願つた。



社協だより

社会福祉協議会大北支部
へ香典返しにかえ、次の方々より、ご寄附を頂きまし
た。ここに掲載し厚く御礼
申し上げます。

- 森 田 義 徳 殿
- 渡 吉 正 殿
- 澁 田 昌 二 殿
- 後 藤 庄 正 殿

駐在所だより

事故防止に

みんなの手を!!

みなさんご存じのとおり、植松地内市道は、道巾が狭く、両側に民家が密集しており、又お年寄り、子供さん等も比較的多い。そのうえ、トラック、乗用車、オートバイ等の通行量も年々増加しております。

これ以上交通問題が悪化するれば、強硬規制に入らざるを得ない状態にもなつて

来ます。そこで、当面兼として、

駐車は絶対にしない
スピードは20km以下に
という事で皆さんの協力を
お願いいたします。

近い内に新道も完成する
とのこと、それによつて、
当問題も良き方向に向くこ
とでありましょう。

お年寄の方、子供さんのおられる方も良き理解と、ご協力をお願いいたします。

俳句

(新年の句)

荒本 暎 秋 送

初詣 老杉ひとと

迫り来る 三枝子

初詣 人それぞれ

願ひ秘め 島 子

初動行 孫も助音の

正信偈 袴 香

新春や 過去の断片

バしく 寿 枝

大杉の 先づ明け初めて

初詣 いちえ

初詣 篝火あかあか

参道を 幸 子

初春や 渚の松に

岬見ゆ コ ト

初春や 埋れ火育て

茶の点前 コ ト

巖打つ 波おだやかに

今朝の春 暎 秋

除夜の鐘 まだ鳴り止まず

初詣 暎 秋

農協だより

昨年は異常天候により、

水不足による干害、或は病害等の為、可成の減収が予想されました。部落によつては、大きな被害を受けられた方も居られるようで、心からお見舞いを申し上げます。

全般的には、昨年を僅かに上廻っていました。これを数字的に比較して見ると次の様になります。

年度別	号 約	政府米	自主流通米
昭和47年度	6970俵	661	5521.5俵
48	6677	708	5924.0
昭和47年度		昭和48年度	
1等米	2	1等米	1
2	598	2	893
3	3,982.5	3	4372
4	1,493	4	1296
5	107	5	55
其の他	0	其の他	15
計	6182.5		6632
備考		1俵 = 60Kg	

公民館だより

大代公民館へ香典返しにかえ、木村吉男氏より多額の御寄附を頂きました。ここに掲載して、厚く御礼申し上げます。

大田市立図書館よりカニ回目の配本が参りました。中に入れてあるカードに借用名と、年月日記入の上、どしどしお読み下さい。